

# 上田まさや Vol.6

## — 新人議員日記 — 活動報告

# まさやレポート



Q 上田まさや | 検索

To tomorrow

命を大切に！  
ひとりじゃないよ

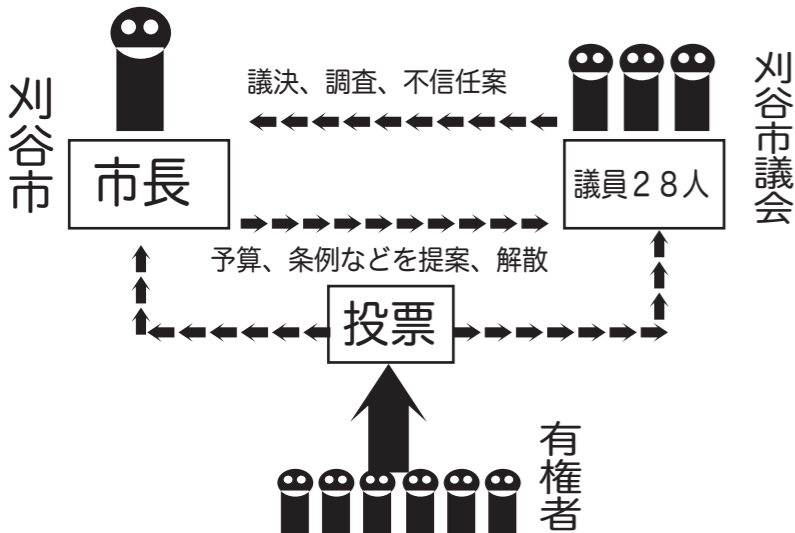
全国で地方議員の不祥事が発覚し、今地方議員の質が問われています。刈谷市議会も存在感を示し市民の信頼を得なければなりません。刈谷市議会も市民の皆さんから選ばれた二元代表制の一方として機能しなければなりません。

刈谷市議会 28 一般質問映像は  検索 で検索

刈谷市議会では年4回（3月、6月、9月、12月）の定例会があります。そこで28人議員が任意で「一般質問」をします。「一般質問」をすると刈谷市の課題が見え、行政と議員が切磋琢磨してお互いの質が上がります。犬山市議会は議員全員が質問しています。見習うべき所です。

## 一般質問回数

	自民クラブ							市民クラブ							公明クラブ	日本共産党 議員団	清風クラブ	志誠会	新自民 クラブ									
	佐野 泰基	前田 秀文	清水 行男	加藤 賢次	渡辺 周二	鈴木 絹男	岡本 優	山崎 高晴	加藤 峰昭	中嶋 祥元	伊藤 幸弘	佐原 充恭	鈴木 浩二	山内 智彦	黒川 智明	沖野 温志	櫻谷 勝	松永 寿	白土美恵子	新村 建治	野村 武文	山本シモ子	星野 雅春	新海 真規	上田 昌哉	蜂須賀信明	神谷 昌宏	成田 正和
24年12月議会	×	○	×	○	×	×	×	○	○	○	×	○	×	×	ギ	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×
25年3月議会	○	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	○	×	○	ギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
25年6月議会	×	×	×	×	○	○	×	○	○	×	×	○	×	○	ギ	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×
25年9月議会	×	×	ギ	○	×	×	○	×	×	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
25年12月議会	○	×	ギ	×	○	×	×	○	×	×	×	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×
26年3月議会	×	×	ギ	○	×	○	×	×	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
26年6月議会	○	×	ギ	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
26年9月議会	ギ	×	○	×	×	○	×	○	×	×	×	○	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×



## 地方政治の仕組み

地方自治法は、議決機関としての「議会」と執行機関としての「首長」（市長など）から成り立っています。両者は仕事を分け合っていて、お互いにけん制する仕組みです。

※市民の皆さんが選挙に行き投票率を上げる事が二元代表制の機能アップをはかり市民生活向上に繋がります。

# 少子高齢化の波と刈谷市人口動態

Yahoo! youtube

Q 上田まさや | 検索

## ●幼稚園と保育園の園児数と決算額の変化

年度	園児数	決算		年度	園児数	決算	
		歳出	円			歳出	円
平成17年	2900人	1063044066円		平成17年	1472人	1372892482円	
平成21年	2609人	1035812864円		平成21年	1406人	1339669512円	
平成23年	2517人	1020810420円		平成23年	1603人	1445165899円	
平成24年	2514人	1083117333円		平成24年	1657人	1461895018円	
平成25年	2454人	1040266335円		平成25年	1705人	1530016210円	
平成26年	2472人	※公立の幼稚園16園		平成26年	1750人	※認可保育園13園	

## ●小学校・中学校の生徒数の変化

年度	人数	刈谷市の人口動態	
		平成23年	平成26年
小学校			
平成21年	8971人	0～5歳 9254人→9314人	プラス 60人
平成24年	8549人	24～29歳 13991人→13577人	マイナス 414人
平成26年	8400人	30～35歳 14301人→13728人	マイナス 573人
中学校			
平成21年	4376人	36～40歳 12913人→11900人	マイナス 1013人
平成24年	4427人	41～45歳 11031人→12107人	プラス 1076人
平成26年	4339人	65～69歳 7277人→8417人	プラス 1140人

出生数  
1970年代初頭 約209万人  
2013年 約103万人

平成17年と平成16年の幼稚園児数と保育園児数の変化を見ると幼稚園はマイナス428人、保育園はプラス278人です。コストを平成25年度の決算額で園児一人当たりを比較すると●幼稚園は423906円●保育園は897370円です。保育園はコストがかかることがわかります。小学校、中学校も生徒数が減っています。刈谷市の人口動態を平成23年、26年で比較してみると確実に●高齢化が進んでいること●働く世代が減少していることがわかります。また、団塊の世代ジュニアが40歳以上にシフトしてきます。さらに少子化が進むと予想されます。0～5歳が増えたのは最後の団塊世代ジュニアの子供たちと推測されます。今後は世代数の少ない40歳以下が増えますので日本国家としても刈谷市としても大変な時代になると予想されます。

## 少子高齢化による刈谷市の今後の課題

- 社会保障費 ●老朽化による公共施設、社会インフラ維持管理費
- ファミリー層の流出による活気の低下、消費の低下、税収の減収

## 今、やるべきこと

今後の刈谷市は、まず転出が続いている働く世代が定着するように住宅施策（造成、固定資産税の減免、子育てファンド、住宅ローンの金利補助など）、教育、子育てを充実させてファミリー層の定住人口を確保しなければなりません。また、公共施設の管理をして刈谷市民にとって必要な箱物とそうではない箱物を考えなければなりません。その中で刈谷城の建設の是非を市民の皆さんで考えて頂きたいです。

## 市民の声が必要です！ 子供たちの未来の為に！

ブログ: [http://blogs.yahoo.co.jp/masaya\\_ueda70](http://blogs.yahoo.co.jp/masaya_ueda70)  
facebook: <http://www.facebook.com/kariyaueda>  
e-mail: [masaya70@gmail.com](mailto:masaya70@gmail.com)